

老人ホームにおける衣生活及びおしゃれ行動

○小林茂雄* 杉山真理

(*共立女大)

【目的】高齢化が急速に進行しつつあり、高齢者の生活上の諸問題はますます重要になってきている。老人ホームでの生活上の問題に焦点をあて、入居者の生きがい観や情動の活性化、衣生活の在り方などについて、施設側の人々がどのように考え、また実状はどうかをアンケート調査を通してとらえ考察した。

【方法】入居者の介護の程度により、①特別養護老人ホーム、②養護老人ホーム、③軽費老人ホーム、各200施設の合計600施設に対して、1996年12月初旬に郵送調査法によるアンケート調査を実施した。なお、調査票の回収率は全体で77%であった。調査内容は、①施設的环境づくりへの配慮、②生きがいを与えるための活動、③入居者の衣服の調達・選択・廃棄、④日常着と寝衣の区別、⑤着替えの実状と着替えの自立、⑥入居者のおしゃれ行動へのアドバイス、⑦おしゃれ行動と情動の活性化への考え、⑧入居者用衣服に必要な条件、などである。

【結果】興味のあるいくつかの点について述べる。生きがいを与えるために「美容師などを呼んで入居者に化粧をする」は約20%が実施していたが、「ファッションショーをする」は約5%であった。おしゃれ意識は情動の活性化に効果があると90%の施設が回答しており、また化粧や衣服のおしゃれ行動へのアドバイスは48%が行っているが、この割合は軽費に比べて、特別養護・養護の方が多かった。定期的な着替えは54%の特別養護が実施していたが、軽費では85%が本人の自由にしていた。また、着替えの自立に向っての行為は、特別養護で51%、養護で39%、軽費で10%が行っていると回答していた。